

住環境の整備・改善

豊中駅前
まちづくり推進協議会

大阪府豊中市 [調査年度：H14年度]

地域の総合的な課題に対応するまちづくりを進めるため、勉強会からスタートした住民による協議会。平成7年に地域の総意に基づくまちの将来像「まちづくり構想」を作成し、市もその提案を受けて「まちづくり基本方針」を作成。活動拠点を確立し、行政と協働で具体的なまちづくりを進めており、この調査では主要地区内道路の沿道整備に向けての住民意向の把握・整理を行った。

団体・活動概要

阪急豊中駅前東口でのまちの将来像を住民全員で共有し（「まちづくり構想」）、その実現のため、ソフト（文化・福祉・環境などの取り組み）とハード（建物整備や道路整備など）両面の活動に取り組んでいる協議会。年1回の定例総会で承認された事業計画を基に20名の運営委員で事業の進捗状況を検討・チェックしており、①構想推進調整部会、②構想推進研究部会、③まちづくりセンター部会、④地区別まちづくり検討部会、⑤音楽部会、⑥広報部会、⑦商業部会、⑧環境部会、⑨まちの改善部会、⑩交通部会、などがそれぞれの問題に取り組む。地域の問題は、地域住民自らが汗を流して解決していくのを基本姿勢にしている。

活動経緯

阪急宝塚線豊中駅前の商店街の衰退に危機感を持った若手商業者の有志が、昭和63年に勉強会を持ったことから始まり、第1期まちづくり研究会、第2期まちづくり研究会、まちづくり協議会を経て現在のまちづくり推進協議会となっている。

平成7年には、活動の成果として、地域の将来像を「豊中駅前まちづくり構想」にまとめ、市長に提案。同年に活動拠点として豊中駅前まちづくりセンター1号館、翌年には2号館をオープン。現在、行政と協働で「まちづくり構想」実現のために活動する段階にまでなっている。

調査年度の活動概要

協議会がまとめた「まちづくり構想」や構想の提案を受けて市が作成した「まちづくり基本方針」に基づき、主要地区内道路の沿道整備の事業化を目指し、沿道権利者・住民を中心に議論を進めた。

- けやき通り：「沿道ルール討論会」を開催し、沿道権利者等の意向を踏まえた整備案を立案。
- 音楽の道：「沿道ルール討論会」の他、アンケートによる意向調査を実施し意向を把握。

活動の特徴・ポイント

行政や専門家の計画を住民が議論、検討するだけでなく、住民自らが専門家の協力を得てまちづくり計画を作成し、行政の支援を受けながらそれを実現していく主体的なまちづくりを進めている。

本調査では、具体的な整備事業に向けての合意形成を図るときに、沿道権利者・住民のまちづくりの熟度によって、アプローチ手法を使い分けたことが大きな特徴。

出典：

「阪急豊中駅前地区における地区内主要道路「けやき通り」「音楽の道」の沿道を含めた整備計画の作成を通じたまちづくりの展開に向けた調査 報告書」H15.3 豊中駅前まちづくり推進協議会

1 | 活動の背景

阪急豊中駅前地区は、昭和40年代前半に再開発された既存市街地で、現在のモータリゼーションに対応する都市基盤が整備されていない。駅前に集中する放射状の狭い幅員の道路に、バス、マイカー、タクシー、業務車両が流入し、日常的に交通混雑が発生している。

さらに、商店街通りに車両が流入することで歩行者空間が分断され、ゆっくり歩いて買い物をするこも、まちを回遊することもできない状態である。このことが、まちの魅力の低下を招いている。

そこで、当地区では、市民が主体的にまちづくりを進める本推進協議会が中心となり、「交通混雑の解消」と

「快適な歩行者空間の確保」に向けた取り組みを進めている。平成7年に本推進協議会が作成した「豊中駅前まちづくり構想」では、「ゆっくり歩き回れるまち」「誰もが安心して暮らせるまち」を目標に、「人中心の通り・広場づくり」を進め、車はまちの外側を通ることを目指している。

また、このような都市基盤の再整備にあわせて商業施設の更新や商業機能の充実を図り、便利で快適な都市居住を実現することも、まちづくり構想策定の大きな目的である。

2 | 活動の経緯と目的

1 | これまでの経緯

阪急豊中駅前地区における市民主体のまちづくり活動は、昭和63年に、同駅前の若手事業者による「豊中駅前周辺地域のまちづくりビジョン（素案）」づくりをきっかけとしている。その当時、阪急宝塚線の高架事業や同駅西口の再開発事業などによる地域環境の変化と、周辺地域の再開発による地域間競争の激化に危機感を抱いた事業者が立ち上がり、まちづくりについての勉強会をはじめた。

そもそもは、商業の活性化が目的であったが、勉強会を積み重ねる毎に、道路・交通問題や住環境の改善、音楽・環境・福祉といったソフト面など、総合的な地域課題を解決することが目的とされるようになった。

平成5年には、地域住民・事業者・土地建物所有者等で組織された「豊中駅前まちづくり協議会」（当時）を設

立し、豊中市まちづくり条例に基づく“まちづくり協議会”として認定第一号を受けた。平成7年には、協議会がまちの将来像である「まちづくり構想」を作成し、同条例に基づき市長に提案。これを受けた市では、平成9年に「豊中駅前地区のまちづくり基本方針」を作成し、協議会に提示している。

現在は、協議会と行政が協働し、「構想」と「基本方針」の実現化に向け、具体的なまちづくりの成果をつくるための活動を進めている。活動の大きな柱は、①新たな道路整備をはじめとするまちの土台のつくりかえ（都市基盤の再整備）、②商業を含めたまちの活性化・魅力づくり（都市機能の強化）、③身近な生活道路・商店街通りの改善（短期的な目に見えるまちづくりの成果づくり）である。

2 | 活動の目的

本活動は、こうした駅周辺の再生に向けた取り組みをさらに進めていくため、「まちの土台のつくりかえ」の整備方針である「環状道路構想」（駅を中心に環状道路を整備し、環状道路内側は歩行者中心のエリア、車は外周を通行）の実現化を促進するため、市の整備方針で示されている「公共施設整備」「再開発や共同化」「建築物等の誘導」のうち、沿道のルールづくりにより地域が主体的に取り組む「建築物の誘導」等による「沿道整備を含めた主要地区内道路の整備」にスポットをあて、環状

道路の整備に向けた取り組みを促進させるものである。

具体的には、「けやき通り（市道本町54号線）」「音楽の道（市道本町51号線）」における建物のセットバックによる道路用地の確保や、置き去り電柱の移設による生活空間の改善、及び沿道整備の整備方針を明確に打ち出し、その実現に向けた取り組みステップとスケジュールを、沿道権利者をはじめ、地域全体で共有化し、具体的な取り組みをスタートさせることを目的とし、本活動を行うものとする。

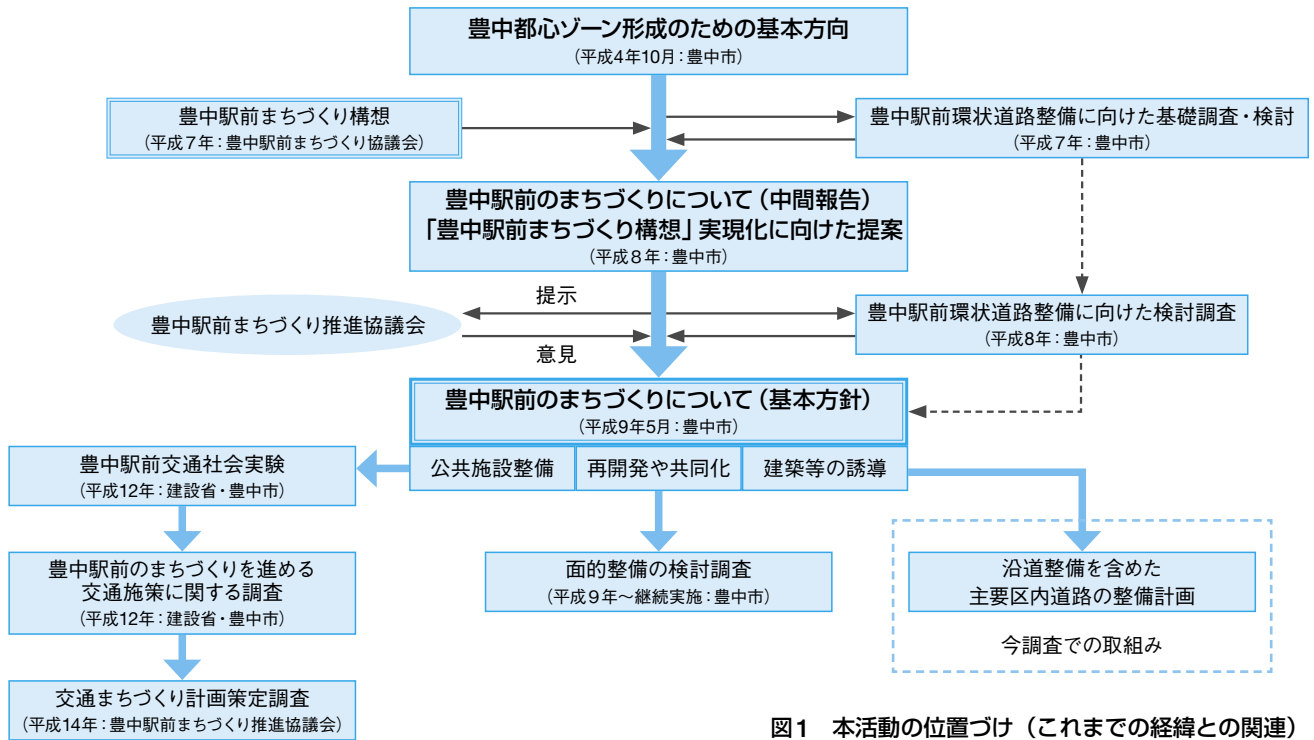


図1 本活動の位置づけ（これまでの経緯との関連）

3 | 活動の内容

今回の取り組みの特徴は、当協議会がまとめた「まちづくり構想」や構想の提案を受けて市が作成した「まちづくり基本方針」の具体化・実現化に向けた『第二段階』の合意形成促進にある。

豊中駅前をはじめ、豊中市で進められている市民主体のまちづくりは、二段階の合意形成手法をとっており、その『第一段階』が地域の総意によってまとめられた「まちづくり構想」である。

今回の取り組みは、沿道整備の事業化を目指し、沿道

権利者・住民を中心に議論を進めた。特に、権利者の顔が見える「けやき通り」については、その意向を整備計画に反映させることによって、事業化のリアリティを高めた。また、権利者の顔が見えにくい「音楽の道」については、アンケートによる意向調査を行い、今後の活動へのベースをつくった。

このように、『第二段階』の合意形成を図るときに、沿道権利者・住民のまちづくりの熟度によって、アプローチ手法を使い分けたことが大きな特徴といえる。

1 沿道ルール討論会

地域住民による「ルールづくり討論会」等のスケジュール

- 平成15年1月27日 第1回準備会
- 平成15年2月8日 第1回討論会
- 平成15年2月14日 第2回準備会
- 平成15年2月25日 第2回討論会
- 平成15年3月14日 第3回準備会
- 平成15年3月18日 第3回討論会

①第1回沿道ルール討論会の概要

平成15年2月8日（土）午後7時～9時 ホテルアイボリー 3階会議室

出席者25名（地元関係12名、事務局6名、オブザーバー（行政）7名）

- 今回の取り組みの目的と進め方
- 通りの現状のビデオ上映
- 他地区の改善事例の紹介
- 構想・基本方針のおさらい
 - 通りの現状の問題の洗い出し
 - 問題点の対応方法の検討

〈フロアからの主な意見等〉

1) 現状と問題

- **けやき通り（市道本町54号線）**
 - ・新免館前の通りは心地良くなったが、逆に車の通行量が多く、歩道も整備されていないので危険。
 - ・近畿大阪銀行横の自転車駐輪のはみ出しが危険、道路が曲がりにくく、柴原線との合流地点が危険、同様に1番街商店街の商品が道路にはみ出して通行の邪魔になっている。
 - ・阪急の高架ができたが、道路機能の整備が十分ではない、デッキが構造的に問題ないのか不安に思う。
- **音楽の道（市道本町51号線）**
 - ・市民病院へ行くタクシーがホテルアイボリー前～けやき通り～音楽の道を通って箕面街道を北上する抜け道として利用するようになっている。
 - ・交通が増えて、東側一方通行道路の区間で月に2回は子供の飛び出し事故が発生している。
 - ・狭い道に置き去り電柱は問題だが、車のスピード緩和に一躍買っているとも思う。
 - ・交差点が危険な状態なので、整備が必要。
 - ・道路の幅や構造の問題がよく取り上げられるが、多様な対応の方法があるのではないかな。

2) 課題と対応

- **全体を通して**
 - ・車が通る現状を検討して一方通行にするなどの対策や、道路幅員で容積率制限なども変わってくるのであれば拡幅の検討も必要ではないかな。
 - ・全部の道路を広げるのは大変なこと、道路ごとの役割を見つけるべきではないかな。
 - ・道路は広いほうが良いとは限らないし、駐輪場などの施設の確保も必要である。
 - ・車のスピードを落とすことも考えるべきで、イメージハンプの工夫必要。置き去り電柱も活用できる。
 - ・まちの将来像や方法は何パターンもある。イメージを統一できることをして、みんなが盛り上がるルールづくりをしよう。

- ・当面の対策としては、通りのイメージを醸し出すことなどが考えられる。

- **けやき通り（市道本町54号線）**
 - ・少しおしゃれな空間になったが、アプローチにその印象がないのが残念。回遊性をもたせるルートが作れたらと思う。国道とけやき通りの交差点にモニュメントなどシンボルになる物を設置してはどうか。
 - ・道路にレンガを敷くなど特徴のある通りとしてはどうか。
 - ・まず道路が狭いことが問題、狭いのに車の通行量だけがどんどん増加している。とにかく道路を広げてからこのような話をするべきではないか。
 - ・土地の買収など問題は多い、建物を共同化するなどの検討も必要。
 - ・お店も10年くらい前から増えた、ホテルを利用するお客さんにも利用しやすい状況をつくるべきではないか。人がゆっくりと歩けるまちにしたい。
- **音楽の道（市道本町51号線）**
 - ・車が通りやすい道路にすべき。
 - ・車も人も通ることが出来る道路にしたい。
 - ・音楽の道ということで道路に楽器を置くなどしてイメージを確立してはどうか。

第1回討論会で挙げられたフロアからの意見や課題等を

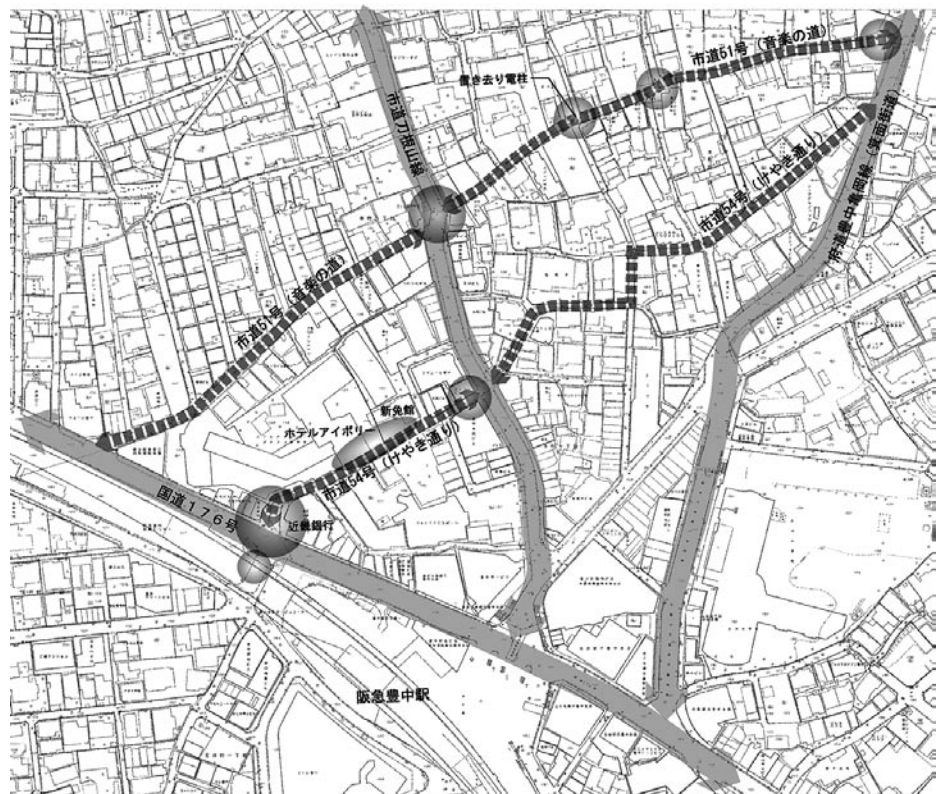


図2 けやき通りと音楽の道の位置図

もとに、本道路における整備課題をまとめると以下のとおりとなる。

道路の課題

- まちの姿を現す
 - ・ まちの顔、まちの賑わい（いとなみ・集客・振興）、生活の快適性
- まちの安全・防災
 - ・ まちの共同スペース、避難、救助、消火、防犯
- スムーズな通行
 - ・ 発生交通の処理、通行の安全、歩行者の安全

②第2回沿道ルール討論会の概要

平成15年2月25日（火）午後7時～9時 ホテルアイリー 3階会議室

出席者22名（地元関係10名、事務局6名、オブザーバー（行政）6名）

- ・ 第1回討論会のまとめ
- ・ 街路の分類と性格づけ
- ・ 道路と建築規制
- ・ 沿道のまちへの役割とイメージ
- ・ 歩車共存道路の考え方
- ・ 沿道整備に向けたルールづくり

〈フロアからの主な意見等〉

1) 現況課題の把握

●整備の進め方

- ・ 点整備ではなく線・面的整備、豊中ブランドが通りに並ぶというイメージで整備を
- ・ まちの中でけやき通り、音楽の道がどういうあり方をすべきかを考えよう
- ・ 10年後には全てが豊中ブランドとなるようなまちづくりを
- ・ ある物を活かすのか、将来的な夢を基準にして考えるのか、大きなプランをもってだんだんと進めるのか？進め方を検討するべき
- ・ 個人の意見にこだわっていたら前進しないのではないか
- ・ 保守的な街なので観点を考えるべきではないか
- ・ 住民のまちづくりに対する意識を深めよう
- ・ 色彩からのまちづくりを検討してはどうか
- ・ まちづくり活動が、住民に響いていないのではないか
- ・ きっちりとしたビジョンを持ち一歩一歩進めていく必要がある
- ・ まちづくりには個人の権利など非常に大きな制約がある

- ・ シンボリックなものがあれば愛着も沸き、もう少し違ってくるのではないか
- ・ 目に見えること、標識を立てるなどの取り組みをしてはどうか
- ・ 道路の幅等具体的な議論が必要

●整備の目標

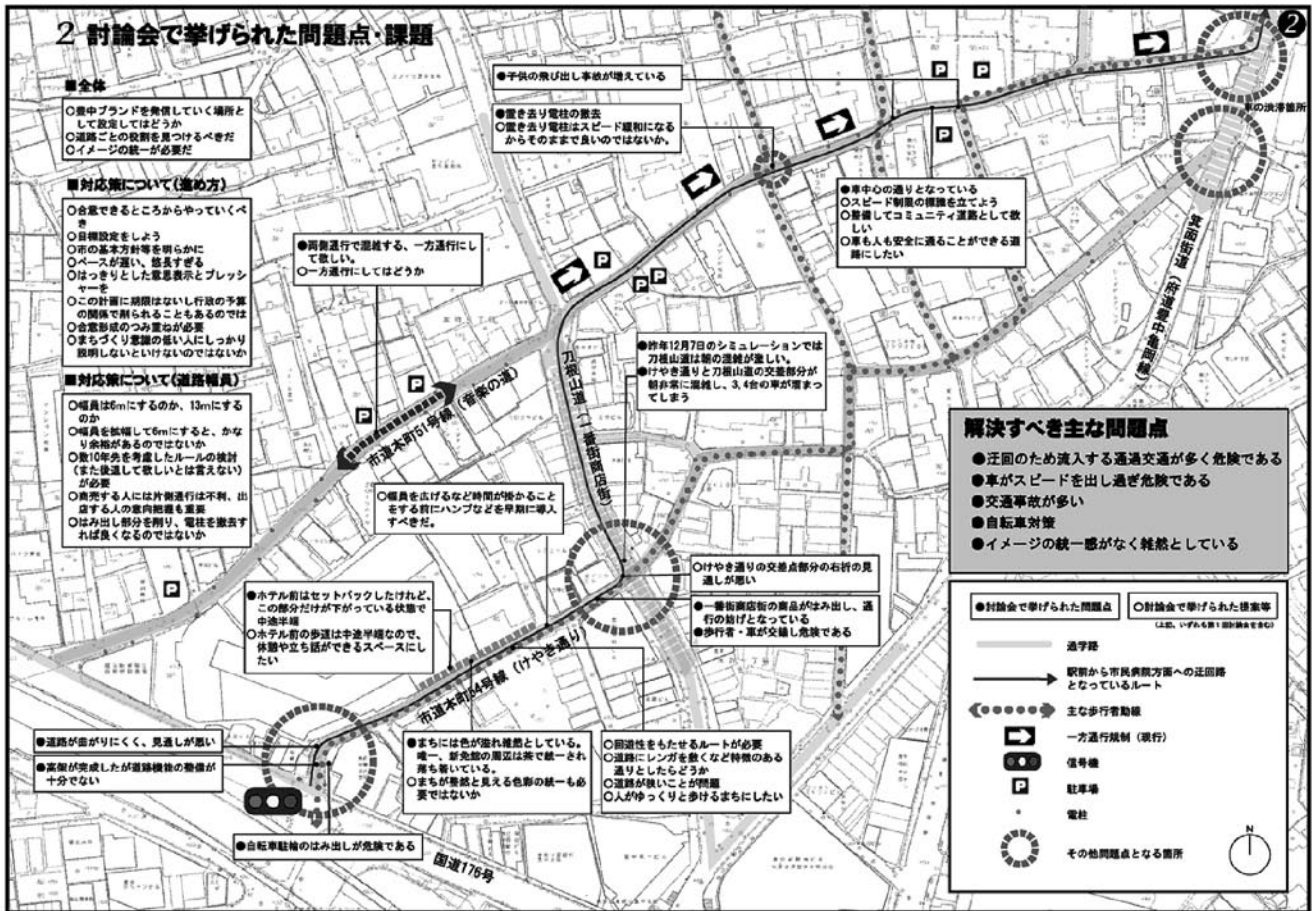
- ・ ウインドウショッピングが気軽にできる通り
- ・ 連続性があり何度も行きたいと思う通り
- ・ ここで商売したいと思わせる道づくりを
- ・ 昔の落ち着いた道路に戻したい（落書き、いたずらが出来る通り）
- ・ 新免館や新しく出来たフランス料理屋のオシャレな通りを軸にしてはどうか
- ・ まちづくり構想基本目標、人がゆっくり楽しく歩けるまち、商業者も企業もがんばっているまち、人が住みやすいまち

●けやき通り（市道本町54号線）

- ・ ホテル前はセットバックしたけれど、この部分だけが下がっている状態で中途半端
- ・ ホテル前の歩道は中途半端なので、休憩や立ち話ができるスペースにしたい
- ・ 豊中ブランドを発信していく場所として設定してはどうか
- ・ スピード制限の標識を立てよう
- ・ 整備してコミュニティ道路として欲しい（音楽の道も同様）
- ・ まちには色が溢れ雑然としている。唯一、新免館の周辺は茶で統一され落ち着いた。
- ・ まちが整然と見える色彩の統一も必要ではないか
- ・ 両側通行で混雑する、一方通行にして欲しい。
- ・ 幅員を広げるなど時間が掛かることをする前にハンブなどを早期に導入すべきだ。
- ・ 昨年12月7日のシミュレーションでは柴原線は朝の混雑が激しい。
- ・ けやき通りと刀根山線の交差点部分が朝非常に混雑し3,4台の車が溜まってしまう
- ・ けやき通りの交差点部分の右折の見通しが悪い
- ・ 置き去り電柱の撤去（音楽の道も同様）

●音楽の道（市道本町51号線）

- ・ スピード制限の標識を立てよう
- ・ 車中心の通りとなっている
- ・ 西向き一方通行にしてはどうか
- ・ 置き去り電柱はスピード緩和になるからそのままが良いのではないか。



2) 対応策について

● 進め方について

- ・ 合意できることからやっていくべき
- ・ 目標設定をしよう
- ・ 市の基本方針等を明らかに
- ・ ペースが遅い、悠長すぎるのではないか
- ・ はっきりとした意思表示とプレッシャーを
- ・ この計画に期限はないし、行政の予算の関係で削られることもあるのでは
- ・ 合意形成のつみ重ねが必要
- ・ まちづくり意識の低い人にしっかり説明しないといけないのではないか

● 道路幅員について

- ・ 幅員は6mにするのか、13mにするのか
- ・ 幅員を拡張して6mにするということだが、かなり余裕があるのではないか
- ・ 数10年先を考慮したルールの検討 (また後退して欲しいとは言えない) が必要
- ・ 商売する人には片側通行は不利、出展する人の意向把握も重要
- ・ はみ出し部分を削り、電柱を撤去すれば良くなるのではないか

● けやき通りについて

- ・ 個別にヒアリングを行い、どういう問題があるのかを把握する (4月以降の取り組み)
- ・ けやき通り西側の違法駐輪の撤去を行う

● 音楽の道について

- ・ 音楽の道沿道住民への意向把握アンケートを行う

③ 第3回沿道ルール討論会より

平成15年3月18日 (火) 午後7時～9時 ホテルアイボリー 3階会議室

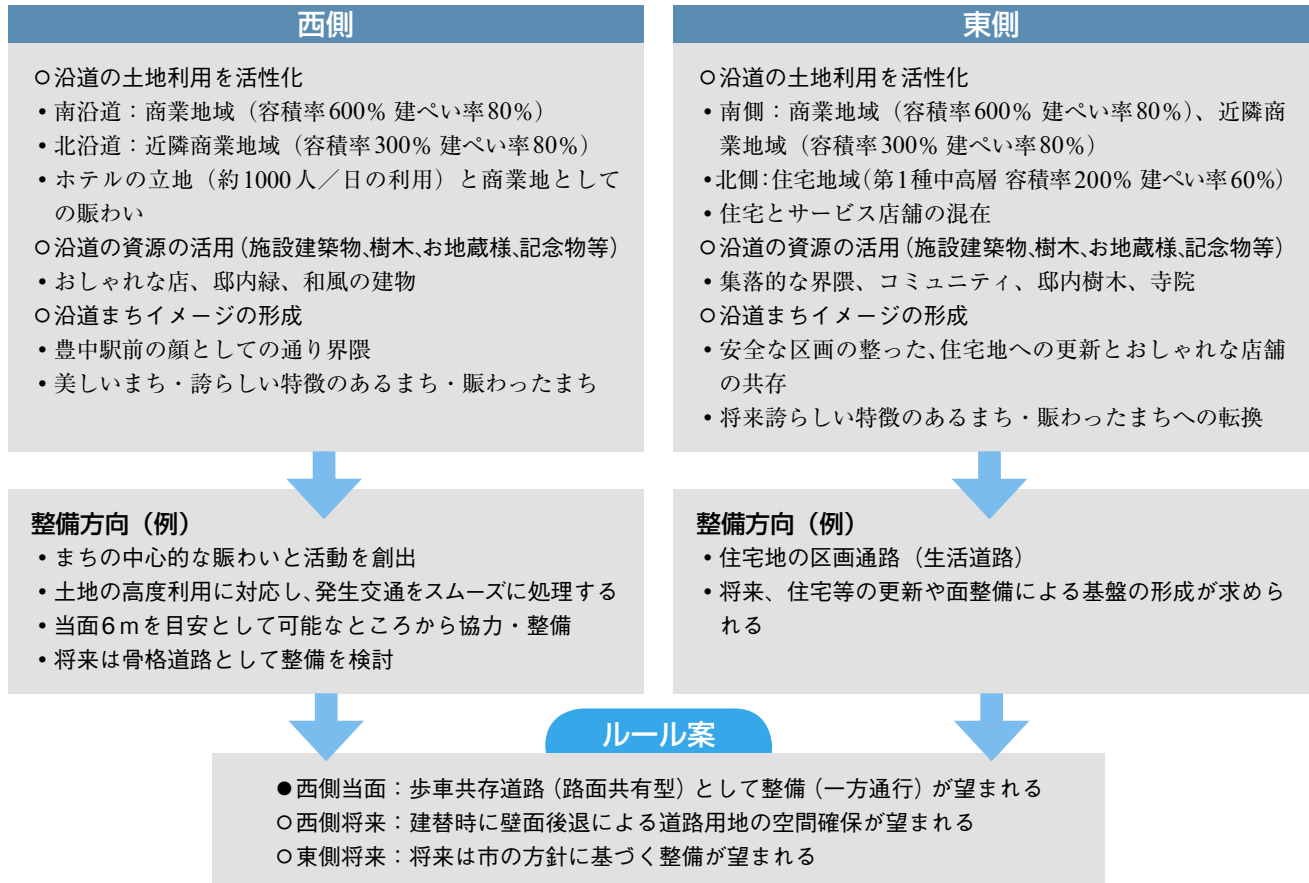
出席者25名 (地元関係13名、事務局6名、オブザーバー (行政) 6名)

- ・ アンケート調査のまとめ
- ・ 整備課題と整備方向
- ・ けやき通り (西側) 整備イメージ
- ・ 沿道まちづくりの推進
- ・ 第2回討論会のまとめ
- ・ 沿道ルールづくりに向けて
- ・ けやき通り (西側) 整備イメージ (2)

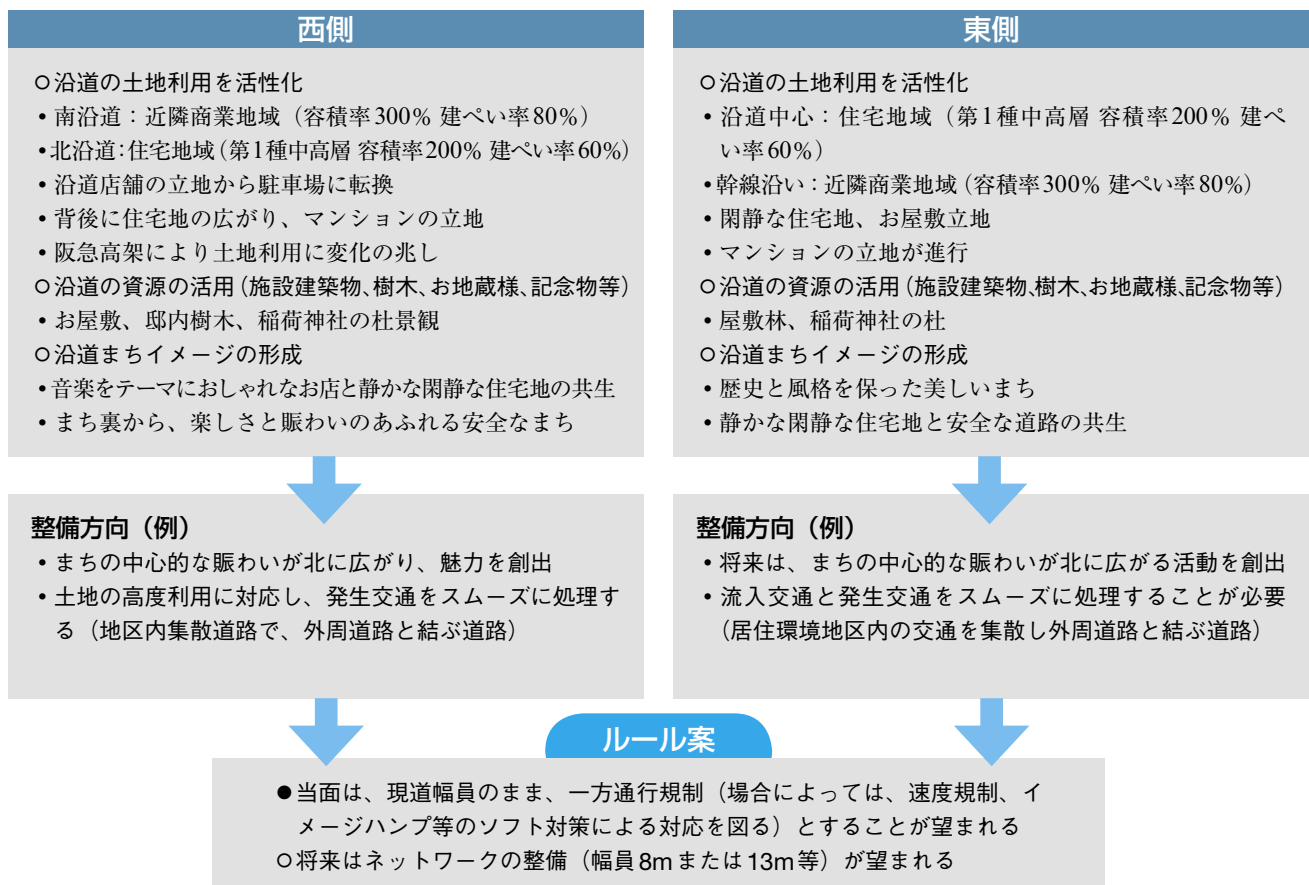
第1～3回討論会の意見等をもとに、沿道の整備の進め方を以下のように設定した。

けやき通り（市道本町54号線）

沿道地権者の意向を踏まえながら整備案を立案。道路拡幅については、実現可能性の高い「6m案」について具体的な整備イメージを検討した。



音楽の道（本町51号線）

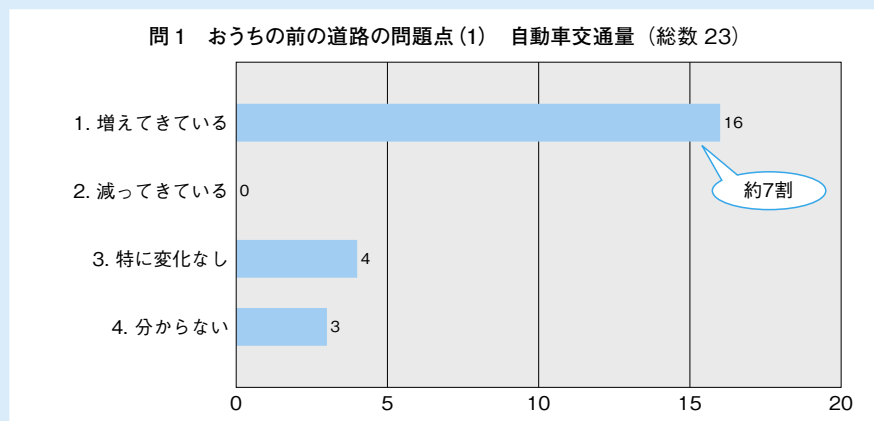


2 音楽の道沿道権利者の意向把握（アンケート）調査

- 調査時期：平成15年3月上旬～中旬
- 調査対象：「音楽の道」沿道権利者150件
- 回収：アンケート回収数 23件（回収率15.3%）

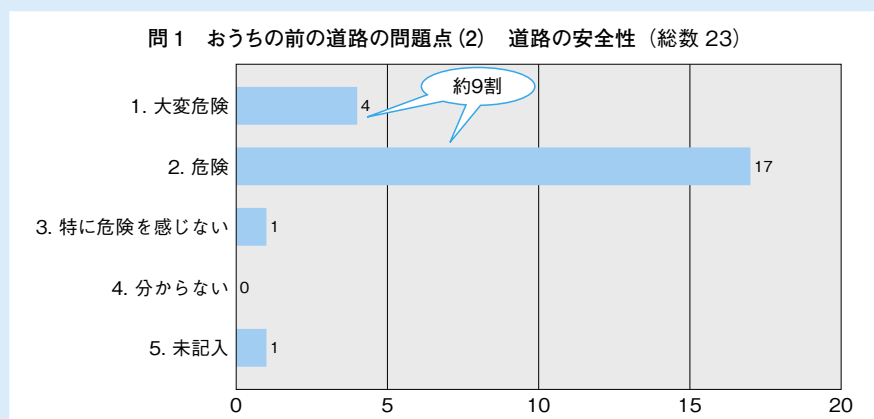
●おうちの前の道路の問題点で自動車交通量について

アンケート回答者23件のうち、約7割（69.6%）の方が、自動車交通量が「増えてきている」（16）と回答されています。



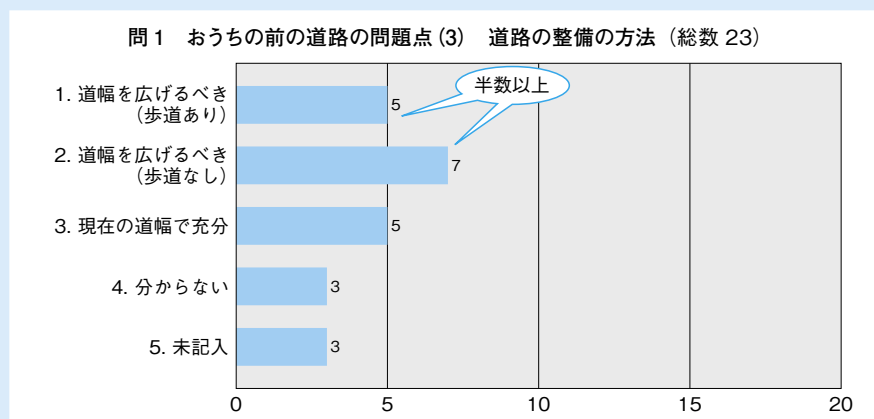
●おうちの前の道路の問題点で道路の安全性について

アンケート回答者23件のうち、9割以上（91.3%）の方が、「大変危険」（4）または、「危険」（17）と回答されています。



●おうちの前の道路の問題点で道路の整備の方法について

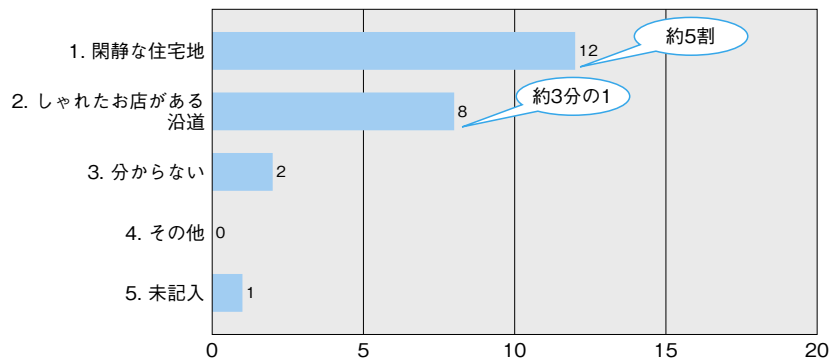
アンケート回答者23件のうち、半数以上（52.2%）の方が、「道路を広げるべき（歩道あり）」（5）または、「道路を広げるべき（歩道なし）」（7）と回答されています。



●今後の「音楽の道」の沿道イメージについて

アンケート回答者23件のうち、半数以上(52.2%)の方が、「閑静な住宅街」(12)がよいと回答され、約3分の1(34.8%)の方が「しゃれたお店がある沿道」(8)と回答されています。

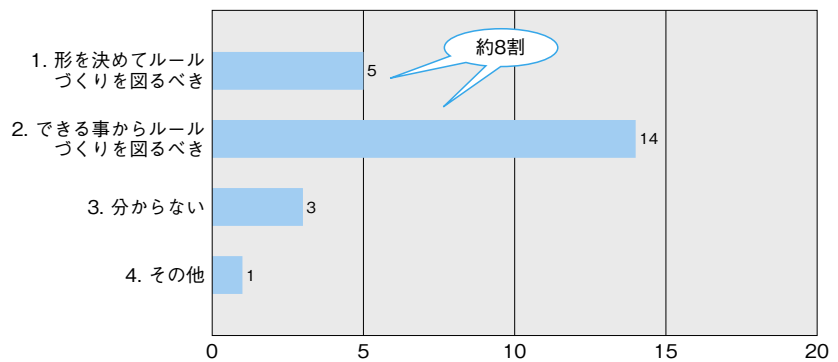
問2 今後の「音楽の道」の沿道イメージ (総数 23)



●沿道のまちづくりのルールについて

アンケート回答者23件のうち、8割以上(82.6%)の方が、「形を決めてルールづくりを図るべき」(5)または、「できる事からルールづくりを図るべき」(14)と回答されています。

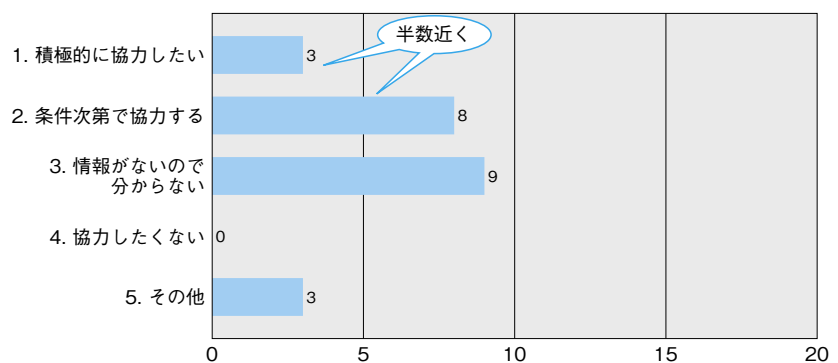
問3 沿道のまちづくりのルール (総数 23)



●まちづくりの協力について

アンケート回答者23件のうち、半数近く(47.8%)の方が、「積極的に協力したい」(3)または、「条件次第で協力する」(8)と回答されています。

問4 まちづくりへの協力 (総数 23)



●その他自由意見

- 一方通行の実現を
- 何故音楽の道なのか?
- 音楽の道といって静かな環境が壊されるのはいやだ
- 東京の吉祥寺のまちづくりを参考にしてほしい
- 店舗と住宅がバランスよく存在する街道とならないか (代官山のイメージ)
- 道路の拡幅は住宅地との調整が難しいと思う
- 道路が狭いうえ車が多く危険である
- 沿道の緑化を多くしてほしい
- 早期の完成を願う
- ネーミングだけで整備ができるのか
- 無関心の人が多いのでは 等

4 | 活動の成果

本活動における沿道地権者の意見交換等により、建物のセットバックによる道路用地の確保や、置き去り電柱の移設による生活空間の改善を実現すべく、「共通目標」がうち立てられ、沿道のルールを確立していくための礎が構築されたものと思われる。

さらに、次年度以降も引き続き、整備に向けた活動を継続していくことによって、地区内の他の通りにおいてもそのルールづくり等に向けた波及効果が期待できる。また、地域全体としてのまちづくり気運を高めていくことにも貢献できるものと思われる。

5 | 今後の展開

今後も、引き続き、「けやき通り（市道本町54号線）」「音楽の道（市道本町51号線）」において、建物のセットバックによる道路用地の確保や、置き去り電柱の移設による生活空間の改善、及び沿道整備の整備方針を明確に打ち出し、その事業化に向けた取り組みを行っていく

ものとする。

当面の活動としては、とくに比較的権利者が少なく、調整が行いやすいと思われる、「けやき通り」についてその整備に向け、重点的に取り組むものとした。その取り組み方法を以下に示す。

1 | 沿道ルールの当面の実行

けやき通りの活性化に取り組む

- 現道（3.5～4.0m）の拡幅を6mを目安として整備に取り組み、進めていく
- 目標：平成15年7月13日（豊中駅前七夕まつり）までに第一段階の整備を行う



写真 ライトアップイベントの事例（京都市姉小路界限）

- 沿道整備計画を具体化する
- 協議会に役割部署を置き、現況測量を含めたワークショップによって目標の整備計画案を策定する
- 沿道権利者との協議を進める
- 沿道整備の事例研究に取り組む
- 裏通り、町家再生の事例研究（例：大阪市空堀商店街界限 等）
- 沿道利用の促進に向けた検討を進める
- 基盤整備計画に向けた関係機関との調整を進める

けやき通りの活性化イベントに取り組む

- 目標：七夕まつり（平成15年7月13日）でのけやき通り沿道ライトアップイベント等（例：京都市姉小路界限；花灯路）を計画実行する
- 企画担当を設置する

2 | 沿道ルールの推進に向けた検討の継続

検討機関の設置

- 沿道ルール化委員会など